

a 学校教育目標	自らの夢に向かって考え、行動できる子供の育成 —自ら伸びる ともに伸びる—	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分で考え、みんなと考え、行動できる児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 児童、教職員、保護者が「自ら伸びる ともに伸びる」という教育風土を持った学校 ・基礎・基本が定着し、児童が主体的・対話的に深く学ぶ姿がある学校 ・児童が夢や志をもち、安心して生活できる学校
----------	--	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成	h 達成					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎学力の定着を図る。  「学び続ける」ためのコンピテンシー(知識・情報、思考力、表現力、主体性)を育成する。	「話す活動」「書く活動」の充実 基礎・基本の反復練習の徹底	国語科・算数科・理科の単元末テストの結果(各学期)	各学期 各教科 知識・技能平均85点以上 思考・判断・表現70点以上	83%		83%	B	国語の知識・技能のみ目標値を超えなかった。ことばのたつじんテスト結果からも、時間や空間に関するスコアが低い実態がわかっている。日常的に使用する語彙を増やす必要がある。また、思考・判断・表現では、算数科の平均点が目標値を超えているが低い。原因として、問題場面がイメージできない、問題が読み取れない等が考えられる。	帯タイムにおいて、語彙量を増やすために、しりとりや言葉あつまめ等にとりくむ。日常生活では、指導者が「右から3番目」等のように位置や時間を表す言葉を使用し、子どもたちにも指導する。算数の問題場面をイメージ化する練習として、場面を絵に描いたり、具体物を用いて説明したりする場面を設定する。そこから作図につながるよう指導を行う。	○ ○ ○			学校組織として児童の「学力向上」に全力で取り組まれていることがよくわかる。今後の成果に期待したい。学び合いによる集団づくりで基礎学力の定着を回り自ら学ぼうとする姿勢につながることを期待する。
			市標準学力調査(NRT)[知識・情報、思考力]	偏差値平均前年度以上 (同一集団による比較)	30%		30%	D	昨年度より伸びていたのは算数3年・算数4年・算数6年であった。繰り返し基本的な計算などを行ったり、全校で2年生のかけ算九九にとりくんだりしたことが結果につながっている。一方、国語ができなかった原因として、語彙の少なさや主述の関係理解不足等が考えられる。	授業や帯タイムにおいて、国語の文法や算数の四則計算など基礎基本の問題にとりくむ。読み取る経験を積ませるために、読解問題にもとりくむ。				
			児童アンケート「学び合いを通して、自分の意見を友達に伝えることができましたか。」「[表現力、主体性]	肯定的評価80%以上	91%		114%	A	授業の中に「学び合い」を位置づけ、自分の考えを相手に伝える機会を設けている。よりわかりやすい伝え方を身につけることや聞き取る力をつけることが必要である。	引き続き、授業の中に「学び合い」を位置づけ、伝えることに自信を持たせるとともに、分かりやすく伝える技能も指導し、表現力のさらなる向上を目指す。併せて、自分が聞き取った内容を含めて、さらに多くの人に伝える場を設定する。また、共感の聞き方ができるよう指導を行う。				
			読書の習慣化を目指した取組の充実	読書量(1年間の読書冊数) 1・2年生50冊、3年生40冊、4・5・6年生30冊	達成した児童の割合 80%以上	84%		105%	A	目標の冊数を達成することができた。特に、低学年が達成度91%で高い。学年差があり、読書週間がまだ定着していない学年もある。				
豊かな心の育成	集団として必要な基本的な生活習慣の定着と幼保小中連携の充実を図る。  自分を愛する心や思いやりの心、態度を育てる。	「挨拶」「返事」「靴そろえ」の強化月間の実施	教職員及び児童アンケートによる評価「4段階3評価以上」(4月・9月・1月)	肯定的評価全項目平均 80%以上	92%		112%	A	児童会目標を毎月決め、できたクラスはシールを貼る取組を継続して行っている。学校全体での声かけも行い、目標値を上回ることができた。	児童が意識して生活することができるよう、児童会目標として取り組むことを継続する。引き続き児童会を中心に生活目標を考え、全体で取り組んでいきたい。	○ ○ ○			児童会を中心に取組を進められている。こうした活動やその中で達成感の積み重ねが6年生の自己肯定感の高まりにつながると思う。
			児童アンケートによる評価「自分にはよいところがある」(4段階3評価以上)(4月・9月・1月)	肯定的評価全項目平均 80%以上	84%		115%	A	児童会を中心に、月の目標を友達の良いところみつけし、キラキラカードを書くことができ、目標値を上回ることができた。しかし書いている学年に差が見られる。	友達のいいところをみつけて、キラキラカードを書くことのできる児童が増えているので、取り組みを継続していく。強化週間を設け、より友達のいいところに目が向けられるようにする。				
健やかな体の育成	生涯にわたる健康に対する高い意識を育て、体力の向上を図る。  体を動かすことが楽しいと感じる児童を育成する。	体育授業の工夫及び改善	体カテスト「反復横とび」の結果(6月・1月)	6月の数値を1月に上回る児童 90%以上	-		-	-		体育の授業のはじめに鬼ごっこや小島おになど、発達段階に応じて瞬発力を高める運動を取り入れる。また、体育の授業で運動量を確保できるよう工夫する。	○ ○ ○			引き続き体力向上に向けた取組をお願いしたい。
			児童アンケート「週3日以上外遊びをしていますか」「なわとびが楽しいですか」(4段階3以上)(4月・9月・1月)	肯定的評価 80%以上	74.8%		94%	B	積極的な声かけや担任と一緒に活動し見守りを行ったことで、児童は安心して外遊びやなわとびの活動に参加でき、目標値に近づけた。しかし体を動かすことに苦手意識をもっている児童へのアプローチが十分ではなかったと考える。	苦手意識のある児童には個別に声をかけた見守りを取り入れたらして、体を動かそうとする意欲へつなげていく。また体を動かすことの気持ちよさを感じられるよう、指導方法の交流や好事例の交流をすることで工夫改善を図る。なわとびについては、カードを活用し技能の向上と達成感を味わわせる。				
働き方改善	学習指導要領改訂や新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。  地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。  教職員の長時間勤務を縮減し、健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	地域の教材化、地域人材活用の推進	地域の教材化と地域GT招聘の実施回数による評価	各学年年間2回以上	100% (9月末現在のべ8回実施)		100%	A	・広島空港との連携や地域人材の招聘・コミセン祭りへの参加など、計画通り実施し、積極的・計画的に推進できている。	引き続き、地域の教材化や地域人材の活用を進め、児童の郷土愛を育むとともに、学校外の人に接する機会をもつことで、児童が多様な価値観に触れる場を提供していく。	○ ○ ○			職員が健康で生き生きと働くことが児童の学力向上へ向けたよりよい教育環境の提供につながると思う。
			市の「学校における働き方取組方針」の「勤務上限の目安時間」の達成(時間外の勤務時間が、月45時間を超えない。)	100%達成	92%		92%	B	・教職員の時間外勤務時間月45時間以内の達成状況は8月末時点で92%だった。	・水曜日の定時退校日の完全実施や学期末の成績処理時間を確保する等、業務改善に努め、月の途中で職員全体の勤務時間を確認し声かけ等を行っていく。				

【j: 自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100

【l: 学校関係者評価 評価】  
イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: 分からない。